

# 3 楽器改良の歴史と現状 ——キルギス共和国のコムズを中心に

## 1 国の名称

日本で知られている「キルギス」という名称はソ連時代に用いられたロシア語の発音によるものです。キルギス語の発音に最も近い名称はクルグズ (Kyrgyz, Кыргыз) であり、憲法上は「クルグズ共和国」です。クルグズスタン (Kyrgyzstan, Кыргызстан) は一般的に使用されている名称です。本研究ではキルギスという語を使用します。

## 2 コムズとの出会い

コムズ (komuz, комуз) とは、キルギス共和国を代表する三弦楽器です。胴は杏の木、表面の板はエゾマツから作られており、弦は靴を仕立てるためのナイロン糸が使用されています。

キルギス共和国における学校教育制度は11年間です。日本と同じように小・中・高等学校に分けられており、小学校には満6歳もしくは7歳で入学します。小学校は1~4年、中学校は5~9年、高等学校は9~11年生になります。このうち義務教育は、小・中学の9年間です。ソ連時代は全ての教育機関は無償でしたが、現在は国が経営しているものもあれば、私立学校もあります。

ソ連時代から今もなお、多くの子どもたちは放

課後にさまざまな習い事に通っています。ロシア語で、このような教育は「学校外の教育」<sup>1)</sup>と呼ばれています。

筆者は1983年に学校外の教育機関である、ドヴォレット・ピオネロフ (Dvoretz Pionerov, Дворец пионеров) という国の施設でコムズと出会いました。当時のドヴォレット・ピオネロフは首都のフルンゼ (Frunze, Фрунзе)<sup>2)</sup> に位置しており、この施設では、コムズ以外に油絵、ダンス、工作などを無償で習うことができました。必要な道具や楽器は、その施設で借りることができ、誰でも気軽に様々な習い事に触れることができました。ドヴォレット・ピオネロフでの音楽授業はグループレッスンで行われ、楽譜を使わず、先生の周りに数人の生徒が座り、先生が弾いたフレーズを真似し、何回も繰り返して覚えるという内容であり、いわゆる口頭伝承でした。当時、このような楽器の習い方は「アマチュア」の音楽教育と言われていました。

1985年に筆者はシュビン (Shubin, Шубин) 児童音楽学校に転校します。この学校では、楽譜の読み取り、ピアノ、音楽学、ソルフェージュなど、音楽家を育てるための科目があり、コムズも楽譜を使って習うことになりました。このような教育は「プロ」の音楽教育と呼ばれており、児童音楽学校に入学するためには、入学試験を受ける必要がありました。受験する児童は、楽器の技術以外にも音楽的素質が求められ、試験の内容には音感やリズム感なども含まれています。

1989年にクレンケエフ (Kurenkeev, Куренкеев) 音楽専門学校というキルギスの伝統的な器楽の学科に入学し、コムズの演奏を習得し続けました。しかし、その音楽専門学校ではこれまでに習ってきた伝統的なコムズではなく、改良されたコムズ



写真1 コムズ  
(撮影: Mashu Komazaki, N. ウラリエフ (Uraliev N, Уралиев Н) 製作, 製作年: 2008年)

が教えられていました。改良されたコムズにはフレットがあり、調弦は伝統的なコムズと異なっていました。また、ピアノ伴奏付きのバラライカの楽譜を使用し、レパートリーのほとんどがロシアとヨーロッパの作曲家による作品でした。

クレンケエフ音楽専門学校を卒業後、キルギス国立音楽大学 (Kyrgyzskaya Gosudarstvennaya Konservatoriya, Кыргызская Государственная Консерватория) に進学しました。ソ連が崩壊し2年を経た1993年のことです。音楽大学では、改良されたコムズと伝統的なコムズの演奏が専門となりました。ソ連崩壊の出来事はキルギスの音楽教育界にも大きな影響を与えました。とりわけ大きな損失は、音楽専門学校や音楽大学に勤めていたユダヤ人、ドイツ人、ロシア人らの知識層が国外に移住したことでした。それによってキルギスの教育水準は急激に低下しました。また、このキルギス国立音楽大学は、1967年に創立されたキルギス国立芸術大学でした。筆者が入学した1993年には、その大学は分割され、キルギス国立音楽大学とキルギス国立芸術大学（ロシア語ではИнститут искусств・Искусств [Institut iskusstv, Институт искусств]）になりました。二つに分かれた当時は、大学の運営も安定しておらず、授業はカリキュラム通り行われませんでした。キルギスがロシアから独立した直後は、国の経済が急激に悪化したため、人々に音楽を楽しむ余裕はありませんでした。楽器を習う人も少なく、西洋クラシックやコムズなどのコンサートがまったくと言えるほど行われていませんでした。

筆者が音楽大学を卒業した際、長年にわたって専門としてきた改良型コムズがアンサンブルやオーケストラで演奏されておらず、ほとんどの音楽機関では教えられていないということがわかりました。誰が、どこで、どのような理由でコムズにフレットを付けたのか、そしてなぜ音楽教育機関や演奏舞台から姿を消したのか。筆者はこの背景を知るためにコムズの歴史を探り始めるに至りました。

以下では改良型コムズについて詳しく述べます。

### 3 改良型コムズ

コムズに対してソ連時代に行われた主な「改良」とは、音高を明確にするためにフレットを付けたことでした。これによって12平均律での演奏が可能となり、既存の西洋楽器とのアンサンブルが容易になりました。なお、ここで用いている「改良」という言葉は、「改良された」というロシア語の形容詞レコンストロイロヴァヌイ (rekonstruirovanyi, реконструированный) に由来します。当時の人々にとってこの言葉は、ただ楽器を変化させることではなく、より良くすることを意味します。ソ連時代はアンサンブル演奏と西洋クラシックの曲が演奏できることは良いことであるという価値観があったため<sup>3)</sup>、筆者も本稿では реконструированный を「改良された、改良型」と訳します。もう一つの改良型コムズの名称は、ロシア語の形容詞ラドヴァイ (ladovyi, ладовый) コムズです。名詞のラド (lad, лад) は、ロシア語ではフレットという意味です。

### 4 改良の目的

ソ連時代<sup>4)</sup>の政府は地域音楽文化の「発展」を目指し、オペラ、バレエ、劇場、フィルハーモニヤ<sup>5)</sup>などを設立しました。それに伴いオーケストラを創設し西洋音楽に合わせた楽器の改良、楽譜の使用、音楽教育機関の設立、ロシア語の教育機関への導入などが政策として行われました。

かつては独奏・即興演奏であったコムズも例外ではなく、アンサンブルやオーケストラでも演奏されるように楽器が改良され、楽譜が設けられ、音楽教育機関で習得することになりました。

このコムズの改良過程は二段階に分けられます。第一段階は、1930年代から始まります。1936年にはキルギス国立フィルハーモニヤが創立されました。フィルハーモニヤではキルギス民族楽器オーケストラが組織され、ロシア人の

P.F. シュビン (Shubin P. F., Шубин П.Ф.) (1894-1948) が指揮者兼指導者になりました。シュビンがオーケストラを設立したときの主な目的は、音楽家が楽譜を読み書きすること、キルギス民族楽器改良の二つにありました<sup>6)</sup>。改良の結果、コムズ属(ピッコロ、プリマ、アルト、バスとコントラバス)が誕生し、キルギスのキュー (küü, күү)<sup>7)</sup> だけではなく、西洋クラシック音楽の演奏も可能になりました。

第二段階は、1950年代に行われます。ロシアから来た B. V. フェフェルマン (Feferman B. V., Феферман Б. В.) (1920-1998) が1951年にキルギス民族楽器オーケストラの指揮者・指導者となりました。フェフェルマンの尽力で1951年から1957年までにタシケント科学芸術大学研究所において A. I. ペトロシャネツ (Petrosyanets A.I., Петросянец А. И) の指導の下コムズとクル・クヤク (kyl kyak, кыл кыяк)<sup>8)</sup> は改良され続け、楽器の音色や形状の改良、音域の拡張がなされました<sup>9)</sup>。

表1 は改良型コムズと伝統型コムズの特徴を比較したものです。筆者自身が音楽機関で専攻したのはアルト・コムズでした。改良型と伝統型コムズには、弦を弾く手の技法に大きな相違点が見られます。アルト・コムズの音色もロシアの民族楽

器のバラライカに似ています。レパートリーや両手の使い方もバラライカの技が使用されていました。また改良型コムズにフレットが付いたこと、調弦が全く異なることから、外見はコムズの形である一方、中身はバラライカだったのではないかと考えられます。

ソ連時代の楽器改良に関しては否定的な意見が多く、例えばコムズの即興演奏がなくなったこと、また音楽と楽器の形が変わったことが挙げられます。しかし、ソ連時代の経験があったからこそ得られたことも大きいです。かつて独奏でしか演奏できなかったコムズがアンサンブルでも演奏されるようになり、レパートリーが増えたことで楽器の可能性は広がりました。また、コムズが舞台上で演奏されるようになったことで音も大きくなりました。パフォーマンス性のある手の動きなどは、今ではコムズの大きな特徴の一つになっています。

〈表1〉 伝統型コムズと改良型コムズの比較

	伝統型コムズ	改良型コムズ
①フレット	なし	あり
②調律	e-a-e, d-a-e, e-a-d 真ん中の弦が最も高い	e-e-a 下の弦が最も高い
③手のパフォーマンス	あり	なし
④レパートリー	コムズのために作られた器楽曲、歌の伴奏	ピアノ伴奏付き西洋クラシックの曲、ロシアのバラライカのための作品が多い
⑤即興	あり	なし
⑥習得方法	かつては口頭伝承。現在は楽譜を用いての習得が多い	楽譜を使用して習得する



写真2 ヴェルトコフ、ブラゴダドフ、ヤソヴィツカヤの『旧ソ連共和国連邦の楽器辞典』の楽器図に載っているキルギス・ソヴィエト社会主義共和国の楽器（改良型コムズ：下段右側3本、伝統型コムズ：下段左側2本）

2012年に筆者がビシケクで調査・インタビューをした際、改良型コムズが二つの音楽教育機関でしか教えられなくなったことと、コムズ属のうち現存するのはバス・コムズであることも明らかになりました。その理由としては、低音のバス・コムズがアンサンブルの土台となっていることにあると思われます。

## 5 まとめ

本稿では、自身の経験を通して、改良型コムズが誕生したことの意味を探ることが目的の一つでした。その結果、改良型コムズ自体がキルギス民族音楽の歴史における貴重な経験であり、伝統型コムズに間接的な影響を与えてきたと思われます。改良型コムズそのものは批判されていても、ソ連時代にこの楽器が製作されたことで、伝統型コムズの重要性が喚起され、さらにソ連時代に伝統型コムズが抑圧された経験があったからこそ、コムズの復興に繋がっているのだと結論づけました。

さらに、2012年のインタビュー調査で明らかになったことは、縦笛のチョール (choor, чоор), 粘土で作られているオカリナに似た楽器のチョポ・チョール (chopo choor, чопо чоор), 横笛のスズグ (sybyzgy, сыбызгы), 太鼓のダブルバス (dobulbas, добулбас) など、コムズ以外の楽器も改良されていることが明らかになりました。やはり、コムズの改良過程をモデルにこれらの楽器も12平均律で演奏されるようになり、アンサンブルで使われるなど幅広いレパートリーを持つようになりました。

キルギス共和国では2019年から9月9日が「コムズの日」になりました。この日は全国各地でコムズの演奏会などが行われます。また、テレビやラジオからコムズの演奏が流れ、注目を集めている大人気の音楽でもあります。いまではコムズという民族楽器はキルギス人にとっては単なる楽器ではなく、民族の象徴となっています。

筆者も子どもの頃にコムズと出会ったことを幸

運に思っています。改良型コムズを習得したことも貴重な経験でした。日本に留学できたこともコムズのお陰であったと言えます。これからも演奏家として、あるいは研究者としてコムズと共に自国の民族音楽文化を伝えていきます。

- 1) Внешкольное образование (露)
- 2) フルンゼ, キルギス共和国の首都の名称 (1926~1991)。ソ連時代崩壊後の1991年からはビシケクと変更している。(Иллюстрированный справочник информационных материалов, Бишкек- город открытый миру (Бишкек: ОсОО «Эпсилон принт марка» ККЦ «Рубин», 2007).)
- 3) Виноградов, Музыка советской Киргизии, p.95.
- 4) ソビエト社会主義共和国連邦 (1922~1991)
- 5) フィルハーモニヤは、キルギスでは演奏会やコンサートを行う文化機関, 施設である。
- 6) Виноградов, Музыка советской Киргизии (Москва: Полиграфкнига, 1939), p.95.
- 7) 楽器のみで旋律を演奏する曲はキルギス語ではキューと呼ばれている。
- 8) クル・クヤクは、弓で弾く二弦楽器。
- 9) Институт истории искусств министерства культуры СССР, История музыки народов СССР, Том 4, p.708.

### 【参考文献】

1. Вертков К, Благодатов Г, Язовицкая Э, Атлас музыкальных инструментов народов СССР (Москва: Музыка, 1975). (English title: Atlas of Musical Instruments of the Peoples Inhabiting the USSR)
2. Затаевич, Александр. 250 киргизских инструментальных пьес и напевов. Москва: Государственное музыкальное издательство, 1934.
3. Институт истории искусств министерства культуры СССР. История музыки народов СССР. Том 4. Москва: Советский композитор, 1973.
4. Виноградов, Виктор. Музыка советской Киргизии. Москва: Управление по делам искусств при СНК Киргизской ССР, 1939.
5. Феферман Б, Кулболдиев Б, Борбодоев Д. Практический учебник игры на комузе. Фрунзе: Киргизское государственное издательство, 1960.
6. Академия наук Киргизской ССР. История киргизского искусства. Фрунзе: Илим, 1971.
7. Жулина М. Н 70 лет ДМШ им. Шубина. Министерство культуры и информации Кыркызыской республики, Детская музыкальная школа им. Шубина, Бишкек: Алтын тамга, 2009.

(ウメトバエワ・カリマン)